

A-3 折れ線関数によるモデル検証能力

中央大・数学・院 大野和広*

長崎大・環境科学 中村剛

非線形回帰モデルで用いられる関数形の決定は有意性検定結果のP値に影響を与える。臨床試験の薬効評価において、折れ線回帰法は層別ログランク検定と線形Cox回帰モデルよりも高い検出力を持つことは確立されているが、検定のサイズの評価は充分には研究されていない。そこで検定のサイズを層別ログランク検定及び線形Cox回帰モデルと比較する問題を考察した。高次の折れ線回帰法とスプライン関数の関係についても考察した。